



一般社団法人

21世紀の新しい企業を創造する経営者集団

日本道経会

会報 令和7年
—2025年—

1
No. 302
月号

本会の目的

本会は、「道徳経済一体」の理念に基づき、産業人教育の推進ならびに繁栄と永続の企業の創造につとめ、経済倫理の確立および経済界の安定的発展に寄与し、地球市民の一員として社会に貢献することを目的としています。

日本道経会会員社数/互敬塾塾生
717社 / 449名

(令和7年1月1日現在)

巻頭言

年頭のご挨拶

(一社)日本道経会 会長
生田産機工業(株) 代表取締役

生田 泰宏



日本道経会の会員の皆様、令和7年新年あけましておめでとうございます。

皆さんにはどのような振り返りの1年だったでしょうか?

令和6年新年での鮮明な記憶は1月1日に発生した最大震度7の能登半島地震でした。

更なる大雨洪水による追い打ちで、いまだ復旧途上のニュースが流れ懸命な被災者のお姿を知ると、こみ上げる思いが溢れるのは私だけではないでしょう。

せめてのことと、会社の神棚へのお祈りと設置した募金箱へわずかながら支援をさせていただいています。

さて私の振り返りは、去る年も「いつも通り」そして「今在ることに感謝」でした。

社業においても、家の内においても、日本国においても、世界においても。

「思わぬことが起こる・残念な結果に終わる・悲しい涙が溢れる・理不尽さを思い知る・人生の儂い命を思い知る・今日の悲劇から明日が希望の日に

なるように」というふうには。

と同時に「努力が報われる瞬間が訪れる・人の成長に喜ぶ・思わぬ幸運に恵まれる・九死に一生を得る・新たな生命の誕生を祝い祈り捧げる」というふうにして、大小深淺さまざまに悲喜こもごもの出来事と出会いが毎年必ず起こっています。

人の気持ちがコロコロ変わるように、身の回りに起こることも、遠く離れたところで起こることも、直接間接的に影響を受け、自身の意思や願いにかかわらず、常に翻弄され続ける人生だとも感じます。

だからこそ、普遍の価値観である「三方よし・道経一体」を共に学び行動する仲間があって心からよかったと思います。今年も変わらず、おかげ様で。感謝の1年にしたいと思います。

本年も会員の皆様と共に「共感・行動・仲間」をテーマに、社会に必要とされなくてはならない「三方よし実践企業」が集まる日本道経会を目指して参りたいと思います。

最後に、会員の皆様の企業の繁栄、個人の健康にご祈念申し上げますとともに日本道経会に対しましてより一層のご協力とご支援の程、よろしくお願ひ申し上げます。

一般社団法人
日本道経会
スローガン

理念 未来を拓く企業の姿は三方よし
活動 企業の繁栄は人づくり経営にあり



令和6年11月15日(金)~17日(日)の3日間、東京支部で中国地区交流会と題し、参加者10名で開催しました。初日は、米子空港から出雲大社へ参拝。神在月と重なり幸運でした。その後、(株)さんびる様を訪問し、社内見学で様々な仕組みと地域貢献を学び、田中正彦社長の熱い講演では「営業をやめる覚悟」、「人づくりの原点は環境づくり」「3世代が勤務」に感動いたしました。

2日目は、広島に移動し、福留ハム(株)様の中島修治会長、福原治彦社長、広島県経済同友会の皆様と交流後、会社見学と中島会長から会社の歴史と取り組みの説明、稲盛和夫先生も認める中島会長の信念の一端」を垣間見ることが出来ました。

その後平和記念資料館見学。3日目は、厳島神社を参拝後、八天堂ビレッジ様を森光孝雅社長付き添いで見学。この施設を作った想いと、夢のある中期目標を聞くことが出来ました。

素晴らしい3社に共通することは、①自社・従業員・地域社会を共によくしようという三方良しの実践、②会社の品性資本、特に経営者の徳が高いこと、③心からの笑顔と気配り、生き生きとした人財を育成していること、まさしく道経一体経営の神髄を学ばせていただき、参加者一同、大満足の研修旅行となりました。

代表幹事 鹿倉 弘之



令和6年11月14日(木)岐阜県モラルロジー会館にて、岐阜ニューモラル岐阜塾、岐阜県モラルロジー経済同友会共催で「ライトアップ」の中村由美講師をお招きして講演会を開催いたしました。参加者は55名でした。中村由美講師は、カレーハウスCoCo壺番屋創業者の宗次徳二・直美夫妻・浜島俊哉社長の三代にわたり秘書として支えられました。平成8年日本秘書協会が選出する「ベストセクター」を受賞し、「日本一の秘書」となられました。現在は、宗次夫妻の事務所「ライトアップ」に移籍され二人の

サポートを続けられています。又月刊「モラルBIZ」にも連載で「気配り上手でいこう」を執筆されてきました。今回の講演のテーマは「“気配り”はプラスワンで上手く行く」具体的内容として 1.人は心地よさを求める生き物 2.気配りの良し悪しは、相手が決める 3.気配りの後の相手の反応をも逃さない 4.上手く行かなかったことを備忘し、次に生かす 5.気配りは誰かの為に、心を込めての5項目について、具体的な事例を含めてお話いただきました。

秘書の仕事は、誰かの為にやる仕事で、黒子的存在で影のようで、人の手足となることであると思っていたが、それだけでは物足りないと言われた。会社の方針、社長の方針、上司の考え方を理解した上で秘書の仕事を行う、社長から言われたことをやるだけでなく、工夫しながらプラスワンを付け加えていく。一歩進んだ知識を得ようとする秘書になって行かれた。又、ジャッジ機能を果たす秘書になって行かれた。

講演の中で宗次夫妻は超お客様第一主義の考

え方（自分以外はおお客様である）で自ら率先して実行され、細かいところまで目が届く（自ら率先してゴミ拾いされる）経営者とのこと。

お客様に満足をしていただくことは、お客様から目が離せないはずである、どんな時でも、どんなお客様でも相手がどんな対応をしようが、“いらっしゃいませ”“ありがとうございます”を必ず言う、それを楽しんでやる、それにお客様が気づいていただければ、又やりがいもでてくる。お客様が喜んでいただいたかどうかは、表情でわかる。又何かをしてもらったら、必ずありがとうございますと言うことで、気配りは完結する。

秘書の仕事として、①「だろう」、でなく「かもしれない」とすべての可能性を考えて行動する。②誰が見てもわかるようにファイリングし

て保管する。クリアファイルの色分け等 ③備忘し次に生かすうまくできなかったことの事例に対して考察をし、次に生かす。

④なぜこの仕事をするのかを伝える。わからなくて仕事をするのはやる気が起こらない。

良く気が付いたね、これからもよろしくねの言葉はやる気を引き出させる。等

中村講師からは、35年間宗次夫妻に仕えられ、実際の仕事を通して学ばれ、気づかれ、工夫された事例についてお話いただき、大変わかりやすく、気配りとは何か、プラスワンとはどういうことかを理解することができました。「カレーなる転身」ととげられた創業者の宗次徳二様のお話も是非聞きたいと思います。

事務局長 浅野 龍介

長崎支部 11月例会



令和6年11月21日（木）株式会社ことほぎの白駒妃登美氏による講演『江戸の商人に学ぶ”商売繁盛”の極意』を開催しました。

子宮頸がん罹患し、数年後転移を知った白駒氏は何のために生きるのか迷います。正岡子規の闘病に学び、未来を恐れず過去を悔まず、大切な人を笑顔にするために生きようと決意し、人に受け継がれる志の歴史が日本の歴史であるとの考えで活動をされています。

白駒氏が若者に問う言葉、それは「かけがえない命、その命にかえても守りたいものはありますか？そんな大事なものに会ってください」です。本当に命に変えても大事なものを持つべきだと説きます。

当時外国人が描写した幸福感に包まれた民の様子や、江戸の庶民は奢侈禁止令が出るほど生き生きと贅沢を楽しみ、その反面廃棄物を再利

用する循環型社会でもありました。

朝飯前のご近所見回りの慣習から分かるのは、稼ぎ3割、仕事7割の言葉があらわすように、稼ぎと働きを別として主に誰かのために仕事をするということです。

足を踏まれて、「いえいえこちらも迂闊でしたので」の『迂闊謝り』を現代社会にも広めたい白駒氏は、粹と野暮についても語りました。

二百年続く企業の半数以上が日本にあります。江戸の商人の哲学から導き出した四つの要素が、ものづくり、仕組みづくり、人づくり、そして経営者の精神です。

日本のものづくりに関しては、グローバル基準の低い方に合わせるな、国際化とグローバル化は違う、と白駒氏は力説します。富山の薬売りは薩摩藩との昆布の交易などの仕組みを作り、江戸寺子屋は見る聞く考える話す実践を最重視した起業家養成所でした。江戸の経営者は神社で「諸国客衆繁盛」を願いました。利他の精神です。

白駒氏は、成長や発展でなく永続性というものを目指したときに、日本の経済はまだ元気を出せるし、そんな寛容性のある社会だからこそ日本人は生き方としても輝いていくのではないかと締め括りました。

事業部長 原 拓也



令和6年12月10日(火)、サンラポーむらくもにて、島根支部12月例会を出席者9名で開催いたしました。島根支部互敬塾生全員が集まる例会は初めてだった為、勉強会のテーマは「互敬塾とは、日本道経会とは、モラロジーとは」と題して、日本道経会事務局長の関根光夫様にご講演いただきました。私たち島根互敬塾は発足してまだ間もないため分からない事ばかりでしたが、関根講師から勉強会テーマそれぞれの項目について、丁寧に分かりやすくお話をいただきましたので、これから学んでいくための基礎が出来上がったように感じます。

講話の中で、クリーニング会社を経営されていた時の失敗談についてもお話いただきました。その中で私が心に残った言葉が「言葉に出さなくても心が

伝わる」というものです。

自分自身の日頃の様子を振り返ったときに、「嫌なことがあると暗い表情になる事があったな」「人に注意されると腹を立てているな」と思い返して、変えないといけないと感じましたし、自分の弱い部分を変えることで、更に自らを成長させることができると確信しました。

勉強会の最後には、グループを作って勉強会を通して感じた自分たちの悩みや困りごとなどをディスカッションしました。それぞれの会社で多くの悩み事があり、共感する部分もたくさんありました。ディスカッションが盛り上がり、時間が足りないと感じるほどでした。

今回の例会を通して、道経一体思想の基礎を知れたこと、塾生間の仲を深めることができた実感しています。

今後も例会を重ねて島根互敬塾も道経一体を仲間と一緒に学んでいきます。

私たちの勉強会のために遠方からお越しいただいた関根講師には大変感謝しております。

ありがとうございました。

事務局 加村 哲也

ラジオ・ニッポン放送に出演



令和6年12月13日(金)「私の正論 新春スペシャル」(地上波ラジオ、1時間番組)産経新聞

社の提供番組に、日本道経会の生田泰宏会長が出演しました。

パーソナリティーは、元フジテレビアナウンサーの、吉崎典子氏です。

テーマは「中小企業に求められる道経一体経営の実践」、生田氏は、日本道経会による「道経一体経営」「三方よし」「品性資本」の価値と、人づくりを経営の目的に置くことの重要性をお話しされました。

本部事務局

本会報のバックナンバーはホームページでご覧いただけます。

NIHON DOHKEIKAI <http://www.ndk.gr.jp>

一般社団法人

発行：**日本道経会**

〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL. (04) 7173-3172 FAX. (04) 7173-3134
E-mail office@ndk.gr.jp

事務局 だより

令和7年がスタートしました。本年も会員様の「道経一体経営」「三方よし経営」のサポートを本部事務局皆で力を合わせ努力させて頂きます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

本部事務局